

バングラデシュ南部避難民救援事業～派遣要員の住環境～

国際医療救援部 河合 謙佑

ミャンマーからバングラデシュに移入した避難民は、2017年8月25日以降その数が713,000人にのぼり、それ以前に移入していた212,000人を含めると、925,000人を超えています（国連調査、2018年5月4日現在）。

日本赤十字社（以下、日赤）は避難民キャンプにおける医療支援を行うために、2017年9月16日に先遣隊5名をバングラデシュに派遣、続いて緊急医療チームを派遣し、2018年4月末まで活動を続けました。医療チームは6チーム派遣され、要員数は130名以上、そのうち当院からものべ20名以上が現地ですべて支援活動を行いました。現在は緊急支援から保健医療支援へと活動の形を変え、支援を続けています。

緊急医療支援の初期である先遣隊～第2班の管理要員として派遣された私は、このたび支援形態を変える第5班～第6班の管理要員リーダーとして再びバングラデシュに派遣され、合計の滞在期間は結局5カ月以上となりました。この期間にどのような生活を送ってきたか報告させていただきます。

ERU(Emergency Response Unit)：緊急対応ユニット

日赤はERUと呼ばれるユニットを所有しています。ERUとは海外での緊急事態、すなわち大規模災害発生時や、疫病流行、あるいは今回のような難民発生時に緊急出動させるユニットで、訓練された専門チーム（ヒト）と資機材（モノ）で構成されています。ERUには病院、給水衛生、通信、ロジスティクスなど様々な専門ユニットがあり、この中で日赤が現在保有するERUは今回も派遣した基礎保健ユニット、つまりクリニック型のユニットです。

ERUの特長の一つが自己完結能力です。一か月間、他からの支援を得ることなく活動を行うことができます。これはつまり、活動する要員もERUの資機材だけで生活することができるということです。そのため、ERUの資機材には医療機器の他に、要員が生活するためのテントやベッド、発電機に浄水システム、トイレやシャワー、そして食料なども備わっています。基礎保健の専門的な資機材だけでなく、生活環境を整える資機材も持ち合わせているのが我々のERUで、総重量は16トンにもなります。

緊急医療支援初期での生活

日赤は2017年9月に先遣隊を派遣し、それと同時にERU資機材もバングラデシュに輸送しました。本来であれば、医療支援活動を行う場所にERU資機材を展開し、クリニックを開設します。そして、要員用テントも張り、生活空間を作ります。

しかし、今回の支援はそのとおりにはいきませんでした。私たちは活動を共にする国際赤十字赤新月社連盟（以下、連盟）の危機管理規則に則って医療支援を行います、この

規則に「全ての要員はコックスバザール市内の指定されたホテルにのみ宿泊すること」と記述がされていました。このため、先遣隊から後に続くチームもホテルが生活の場となりました。

ホテルでの生活

コックスバザール市内は日赤が活動する避難民キャンプから車で約1時間半の場所にあります。世界一長い砂浜と言われるロングビーチに面したこの町は、国内で人気の高い観光地です。複数あるホテルの中で連盟が指定するホテルは5つあり（現在は7つ）、「価格、部屋の広さ、築年数、設備、会議室の有無、アクセス、駐車場、サービス」など多岐に渡る項目を日赤チームで独自に比較検討した結果、一つのホテルを選定しました。一泊朝食付きで3,000 バングラデシュタカ（約4,000円）は、5つのホテルから提示された中で最も低い宿泊費でした。



仕事がしやすいシンプルな部屋



ホテル会議室にて情報共有

ホテルでの生活はいくつかのメリットがあり、例えば外の気候に左右されない生活空間の確保が挙げられます。また衛生環境も管理されており、要員はしっかりと休息を取ることができます。一方、人気の観光地であるがゆえ、部屋の確保に悪戦苦闘することもあります。時には国内企業が社員旅行のためにホテルを丸ごと予約することもあり、その期間私たちは別のホテルの部屋を探し回ることになります。

ベースキャンプでの生活

避難民キャンプの近くにノルウェー赤十字社およびフィンランド赤十字社が運営するフィールドホスピタル（野外病院）が展開され、同じ敷地内にデンマーク赤十字社が運営するベースキャンプと呼ばれる施設が開設されました。ベースキャンプとは名前の通りキャンプ施設であり、要員が生活できる設備が整っています。要員用宿泊テント、トイレ、シャワー、洗濯設備、キッチン、発電機に浄水システム、インターネット環境など。連盟の危機管理規定において、要員の宿泊施設の一つにベースキャンプが挙げられたことを受け、

緊急医療チームの第5班からベースキャンプを拠点に活動することになりました。



テントは二人用で、中に個人テントが2つ備わっている



雨季に備え砂利と水路が設置

ベースキャンプは非常に管理が行き届いており、シャワーやトイレといった衛生設備は特に清潔に保たれていました。また、宿泊用テントは個人タイプとなっており、プライベートスペースが確保され、テント内も電気機器類や家具などの設備が整っていました。



寝具、棚、電灯、扇風機、電源ケーブル。
身長180cm以上でも余裕の設計



トイレは定期的に清掃



足踏み式水洗トイレ



洗濯エリア（左）・シャワー室（右）



温水シャワー完備



現地調達乾燥機（左）・洗濯機（右）

一方、キャンプ施設であるが故、生活環境は天候の影響を受けやすくなります。また、森林地帯に設営されているため、蚊やハエなど感染症の原因となる虫も飛び交っています。ベースキャンプでの生活は体調管理の徹底が求められる生活でもあります。

このように厳しい一面もありますが、世界中から派遣される要員が利用する施設として、これら要員との情報交換の場であり、また世界中に人脈を作ることができる場でもあるのがベースキャンプです。



天気が良いと半日で乾く



ミーティングスペースで各国の要員と

ホテルでの生活、ベースキャンプでの生活、各々に善し悪しがあります。また、冒頭で記載のとおり、日赤の ERU 資機材には要員のための生活設備が備わっています。どの生活環境（宿泊設備）が最も優れているかは活動地域や気候などによって異なりますので、生活環境の構築には柔軟な対応が求められます。

私が滞在していた期間のバングラデシュは乾季でした。その乾季も終わり、雨季が始まろうとしています。また、今はモンスーンが襲来する季節でもあります。この環境下で活動している要員によりますと、現在はコックスバザールのホテルを拠点にしているとのこと。

いつも当院の人道支援にご協力いただきありがとうございます。

バングラデシュの避難民キャンプでは、去年の移入後初めて本格的な雨季を迎えます。衛生環境の悪化による感染症の蔓延、安全な飲み水や食糧の不足、大雨による住居の浸水や地滑りの発生、そこで生活する人々の生活の場と生命が危険にさらされる恐れがあります。一人でも多くの方を救うために、引き続き皆さまのご支援をお願い申し上げます。